

お台場鳥の島（2 島）における鳥類のモニタリング調査 秋季調査（10 月）報告書

2025 年 11 月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 7 年 10 月 15 日(水)	8 : 00～14 : 00	曇り

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を実施した。

（1） 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に 1 本設定し、観察範囲を片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2 島の眺望のよい地点に定点を 2 点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

第 5 回秋季調査（※調査回の定義については後述する）においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に 1 台設置した。なお、本調査で回収したデータの撮影期間は、カメラの落下により 51 日間であった（第 10 回夏季調査～第 11 回秋季調査）。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



写真 1 各調査手法における調査風景

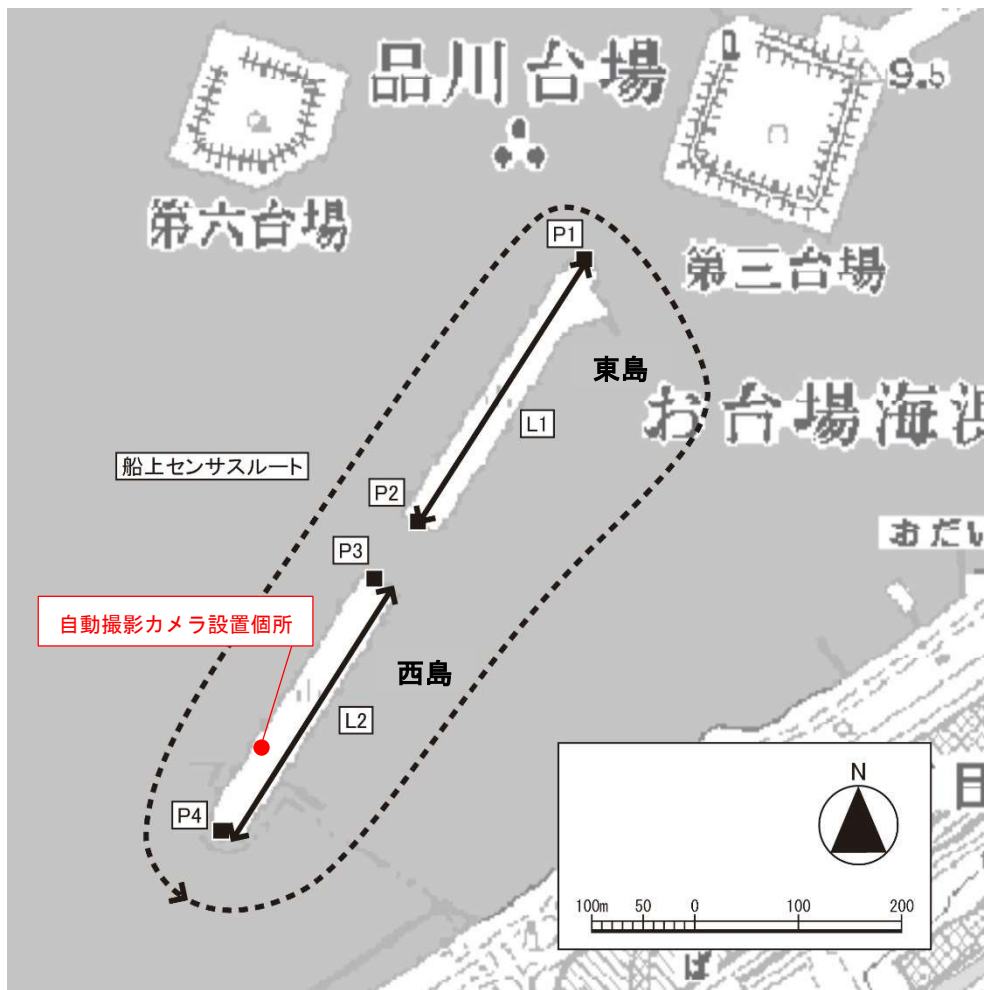


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 11 回の秋季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期	調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季	第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季	第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季	第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季	第 10 回	令和 6 年秋季～令和 7 年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季	第 11 回	令和 7 年秋季～令和 8 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季		

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天: 特別天然記念物 天 : 天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号) ※以下、種の保存法と記す	国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
④	「東京都レッドデータブック 2023(本土部)」 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版 (令和 5 年、東京都)における区部の掲載種 ※以下、東京都 RL と記す	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群 *: 留意種 *①: 準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②: 人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、8 目 17 科 22 種が確認された（表 4）。
- 確認種の約 5 割が水域及びその周辺に生息する種であり、11 種（ヒドリガモやセグロカモメ、ハクセキレイ等）が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 7 種（オオタカやシジュウカラ、キビタキ等）が確認されたほか、都市部で見られる種として 1 種（スズメ）、様々な環境で見られる種として 3 種（キジバト、トビ及びハシブトガラス）が確認された（表 4）。
- 当該地域における渡り区分別にみると、留鳥（旧防波堤で一年中見られる種）の確認種数が最も多く、16 種（カルガモやヒヨドリ、ハクセキレイ等）が確認された。次いで、冬鳥（旧防波堤で冬に見られる種）が 5 種（ユリカモメやミサゴ、アカゲラ等）、旅鳥（旧防波堤で春と秋に見られる種）が 1 種（キビタキ）確認された（表 4）。
- 重要種は、イソシギ、ウミネコ、ダイサギ、ミサゴ、オオタカ、トビ及びモズの合計 7 種が確認された（表 4）。島内では、護岸で採餌や休息するイソシギ、広葉樹林にとまるオオタカ、トビ及びモズが確認された。島内外では、上空及び海域を飛翔するウミネコ、ダイサギ及びミサゴが確認された。
- 外来種は確認されなかった（表 4）。
- 確認個体数が最も多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、両島で合計 68 個体（表 5）、ラインセンサスでは、両島で合計 39 個体が確認され、優占度は東島で 58%と最も高い値を示した（表 6）。また、定点観察調査では、両島で合計 89 個体が確認され、優占度は各地点で 26～78%と全体的に高い値を示した（表 7）。両島の上空や海域を通過する個体のほか、広葉樹林内にとまる個体も多く観察された。
- カワウに次いで確認個体数が多かった種は、ヒヨドリであった。船上センサスでは、東島で 7 個体、西島で 5 個体の合計 12 個体（表 5）、ラインセンサスでは、東島で 6 個体、西島で 15 個体の合計 21 個体（表 6）、定点観察調査では、東島で 3 個体、西島で 14 個体の合計 17 個体（表 7）が確認された。両島の上空を通過する個体が特に多く見られたほか、西島の広葉樹林にとまる個体も多く確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、ユリカモメ、ウミネコ、アオサギ及びスズメであった。ユリカモメは、定点観察調査において西島で 15 個体が確認され（表 7）、西島付近の海域で飛翔する個体が多く観察された。ウミネコは、定点観察調査において両島で合計 16 個体が確認され（表 6）、両島の上空や海域を飛翔するほか、東島東側の海域で休息する個体も観察された。アオサギは、船上センサスにおいて東島で 16 個体、西島で 3 個体が確認され（表 5）、東島の護岸で休息する個体が多く観察された。スズメは、ラインセンサスにおいて両島で合計 17 個体が確

認められ（表 6）、東島の広葉樹林でとまる個体や上空を通過する個体のほか、西島の低茎草地で採餌する個体も確認された。

（２） 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 10 回（前回調査）と第 11 回（今回調査）の確認種数は、第 10 回では東島で 22 種、西島で 18 種の合計 26 種、第 11 回では東島で 15 種、西島で 20 種の合計 22 種であった（表 8）。両回で共通して確認された種は 18 種であり、第 10 回の確認種全体の 6 割を占めた。第 11 回では、第 10 回と比較して留鳥及び冬鳥の確認種数がやや少ない結果となった。第 10 回と同一日程で調査を実施したが、渡りの時期にあたるため、第 11 回では確認されなかった種が複数存在したと考えられる。
- 第 10 回では確認されず、第 11 回で確認された種は、ヒドリガモ、セグロカモメ、アカゲラ及びモズの 4 種であった（表 8）。ヒドリガモは、これまで秋季及び冬季に不定期に記録されており、秋季の記録は第 5 回以来、2 例目となる。セグロカモメは、これまで夏季を除く 3 季で記録されており、秋季の記録は第 8 回以来、3 年ぶりである。アカゲラは、各季を通じて調査開始以来、初めて確認された種である。モズは、これまで秋季及び冬季に記録されており、秋季の記録は第 7 回以来、4 年ぶりとなる。
- 第 10 回で確認され、第 11 回では確認されなかった種は、コガモ、スズガモ、オオバン、コサギ、メジロ、ムクドリ、イソヒヨドリ及びキセキレイの 8 種であった（表 8）。このうち、冬鳥のコガモ、スズガモ、オオバン及び留鳥のコサギは、これまで秋季調査で不定期に記録されている種であり、第 11 回では確認されなかったと考えられる。留鳥のメジロ、ムクドリ及び冬鳥のイソヒヨドリは、秋季調査で不定期に記録されているものの、第 5 回以降は観察例数が比較的多く、第 11 回では一時的に確認されなかった可能性が高い。冬鳥のキセキレイは、秋季調査では第 2 回及び第 10 回の 2 例のみの記録であり、秋季における記録が非常に少ないことから、第 11 回では確認されなかったと考えられる。
- 第 10 回より第 11 回で個体数が増加した種は、ユリカモメ、カワウ、スズメ及びカラヒワであった（表 9、表 10、表 11）。ユリカモメ及びスズメについては、「(1) 現地調査結果」に記載のとおり、ユリカモメは西島付近の海域を飛行する個体が、スズメは東島の広葉樹林でとまる個体や上空を通過する個体が多く確認された。ユリカモメは、両島周辺の海域を移動しながら採餌や休息を行うため、日ごとの確認個体数の変動が大きく、第 11 回では個体数が増加したと考えられる。スズメは、東島で幼鳥が確認されたことから、両島周辺地域で繁殖した家族群等が本島を採餌

や休息場所として利用した結果、個体数が増加したと考えられる。カワウは、主に飛翔個体が記録されており、両島の上空や海域を飛翔した後、第六台場の方向へ飛び去る個体が多く観察された。このことから、第六台場を利用する個体が両島周辺を飛翔した結果、第11回では一時的に飛翔個体が多く記録されたものと考えられる。カワラヒワは、西島の上空で群れが記録されたことから、渡り個体が一時的に飛来し、個体数が増加したものと推定される。

- 第10回より第11回で個体数が減少した種は、カルガモ、ヒヨドリ及びムクドリであった（表9、表10、表11）。カルガモは、第10回では両島東側の海域で飛翔や休息する個体が確認された。しかし、第11回では両島とお台場海浜公園間の海域において、噴水施設整備工事に伴う足場の設置や工事関係の船舶の係留が見られたため、休息場所を変更したことにより個体数が減少した可能性が考えられる。ヒヨドリは、第10回では両島で10個体以上の渡りの群れを複数回確認したが、第11回では10個体以下の小群を数回確認するのみであった。渡りの時期には日ごとの個体数変動が大きいと、第11回では一時的に個体数が減少したと考えられる。ムクドリは、第10回では東島で20個体の群れを確認したが、第11回ではヒヨドリと同様の要因に加え、調査日に周辺地域からの飛来がなかったことにより、一時的に確認されなかったと考えられる。

(1) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類4目6科6種、哺乳類1目1科1種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、アオサギ、トビ、ハシブトガラス、ムクドリ及びスズメの6種、哺乳類ではクマネズミ属の一種が確認された。
- 自動撮影カメラにおいて、第10回秋季調査に引き続き、今回もハシブトガラス幼鳥が成鳥に餌乞いする様子が撮影された。周辺地域で繁殖した家族群が本島を養育場所として利用していると考えられる。
- 西島において、踏査中に島内東側の護岸上でアオダイショウ（東京都RL：NT）の幼体1匹を確認した。アオダイショウは、第7回春季調査で東島において成体が、また第8回秋季調査で西島において幼体を確認されている。
- 両島の東側護岸上において、推定ドブネズミの糞を多数確認した。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準			
					秋季(10月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	ヒドリガモ	冬鳥		○				
2			カルガモ	留鳥		○				
3	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
4	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
5		カモメ	ユリカモメ	冬鳥		○				
6			ウミネコ	留鳥	○	○				*①
7			セグロカモメ	冬鳥		○				
8	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
9	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
10			ダイサギ	留鳥	○					NT
11	タカ	ミサゴ	ミサゴ	冬鳥	○	○			NT	EN
12		タカ	オオタカ	留鳥	○	○			NT	EN
13			トビ	留鳥	○	○				NT
14	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	冬鳥		○				
15	スズメ	モズ	モズ	留鳥	○					CR
16		カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
17		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
18		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
19		ヒタキ	キビタキ	旅鳥		○				
20		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
21		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
22		アトリ	カワラヒワ	留鳥		○				
合計	8 目	17 科	22 種	-	15 種	20 種	0 種	0 種	2 種	7 種

注 1.分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2.重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				秋季(10 月)		
				東島	西島	
1	ハト	ハト	キジバト	0	1	1
2	チドリ	シギ	イソシギ	6	9	15
3		カモメ	ユリカモメ	0	1	1
4			ウミネコ	0	2	2
5	カツオドリ	ウ	カワウ	59	9	68
6	ペリカン	サギ	アオサギ	16	3	19
7	タカ	タカ	オオタカ	1	1	2
8			トビ	1	1	2
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	4	6
10		ヒヨドリ	ヒヨドリ	7	5	12
11		スズメ	スズメ	1	0	1
12		セキレイ	ハクセキレイ	4	4	8
13		アトリ	カワラヒワ	0	17	17
合計	6 目	11 科	13 種	9 種	12 種	13 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				秋季(10 月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	チドリ	カモメ	ユリカモメ	0	0%	1	3%	1
2			セグロカモメ	0	0%	1	3%	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	38	58%	1	3%	39
4	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	1	3%	1
5	スズメ	カラス	ハシブトガラス	4	6%	0	0%	4
6		シジュウカラ	シジュウカラ	4	6%	6	19%	10
7		ヒヨドリ	ヒヨドリ	6	9%	15	47%	21
8		スズメ	スズメ	14	21%	3	9%	17
9		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	4	13%	4
合計	4 目	8 科	9 種	66	100%	32	100%	98
				5 種		8 種		9 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				秋季(10 月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	ハト	ハト	キジバト	2	3%	1	3%	0	0%	0	0%	3
2	チドリ	シギ	イソシギ	2	3%	1	3%	3	9%	1	2%	7
3		カモメ	ユリカモメ	0	0%	0	0%	2	6%	13	28%	15
4			ウミネコ	1	2%	2	6%	0	0%	13	28%	16
5	カツオドリ	ウ	カワウ	45	78%	21	64%	9	26%	14	30%	89
6	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1	2%	0	0%	1	3%	0	0%	2
7		タカ	オオタカ	0	0%	0	0%	1	3%	1	2%	2
8			トビ	0	0%	2	6%	2	6%	0	0%	4
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	0%	2	6%	1	3%	2	4%	5
10		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	2	6%	0	0%	1	2%	3
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	3	5%	0	0%	12	35%	2	4%	17
12		スズメ	スズメ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1
13		セキレイ	ハクセキレイ	4	7%	1	3%	3	9%	0	0%	8
合計	5 目	11 科	13 種	58	100%	33	100%	34	100%	47	100%	172
				7 種		9 種		9 種		8 種		13 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		秋季(10 月)			
		第 10 回(R6～R7)		第 11 回(R7～R8)	
		東島	西島	東島	西島
1	ヒドリガモ				○
2	カルガモ	○	○		○
3	コガモ	○			
4	スズガモ		○		
5	キジバト	○	○	○	○
6	オオバン	○			
7	イソシギ	○	○	○	○
8	ユリカモメ	○			○
9	ウミネコ	○	○	○	○
10	セグロカモメ				○
11	カワウ	○	○	○	○
12	アオサギ	○	○	○	○
13	ダイサギ	○	○	○	
14	コサギ		○		
15	ミサゴ	○		○	○
16	オオタカ	○		○	○
17	トビ	○	○	○	○
18	アカゲラ				○
19	モズ			○	
20	ハシブトガラス	○	○	○	○
21	シジュウカラ	○	○	○	○
22	ヒヨドリ	○	○	○	○
23	メジロ		○		
24	ムクドリ	○	○		
25	キビタキ		○		○
26	イソヒヨドリ	○			
27	スズメ	○	○	○	○
28	キセキレイ	○			
29	ハクセキレイ	○	○	○	○
30	カワラヒワ	○			○
合計	30 種	22 種	18 種	15 種	20 種
		26 種		22 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		秋季(10 月)			
		第 10 回(R6～R7)		第 11 回(R7～R8)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	5	14	0	0
2	キジバト	0	0	0	1
3	オオバン	1	0	0	0
4	イソシギ	9	3	6	9
5	ユリカモメ	0	0	0	1
6	ウミネコ	0	0	0	2
7	カワウ	12	4	59	9
8	アオサギ	31	1	16	3
9	ダイサギ	3	0	0	0
10	オオタカ	1	0	1	1
11	トビ	2	0	1	1
12	ハシブトガラス	4	2	2	4
13	ヒヨドリ	15	35	7	5
14	スズメ	0	0	1	0
15	キセキレイ	1	0	0	0
16	ハクセキレイ	3	2	4	4
17	カワラヒワ	0	0	0	17
合計個体数		87	61	97	57
合計島別種数		12 種	7 種	9 種	12 種
合計種数		12 種		13 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		秋季(10 月)							
		第 10 回(R6～R7)				第 11 回(R7～R8)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジバト	3	8%	0	0%	0	0%	0	0%
2	ユリカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%
3	セグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%
4	カワウ	2	5%	0	0%	38	58%	1	3%
5	アオサギ	1	3%	3	6%	0	0%	1	3%
6	コサギ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
7	トビ	2	5%	0	0%	0	0%	0	0%
8	ハシブトガラス	0	0%	3	6%	4	6%	0	0%
9	シジュウカラ	2	5%	0	0%	4	6%	6	19%
10	ヒヨドリ	26	67%	35	74%	6	9%	15	47%
11	ムクドリ	0	0%	4	9%	0	0%	0	0%
12	スズメ	2	5%	1	2%	14	21%	3	9%
13	ハクセキレイ	1	3%	0	0%	0	0%	4	13%
合計	13 種	39	100%	47	100%	66	100%	32	100%
		8 種		6 種		5 種		8 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		秋季(10 月)															
		第 10 回(R6～R7)								第 11 回(R7～R8)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	1	3%	0	0%	0	0%
3	イソシギ	3	2%	2	5%	0	0%	3	5%	2	3%	1	3%	3	9%	1	2%
4	ユリカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	13	28%
5	ウミネコ	1	1%	1	3%	1	1%	11	19%	1	2%	2	6%	0	0%	13	28%
6	カワウ	24	19%	2	5%	10	7%	9	16%	45	78%	21	64%	9	26%	14	30%
7	アオサギ	1	1%	2	5%	2	1%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8	ダイサギ	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	ミサゴ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	1	3%	0	0%
10	オオタカ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	1	2%
11	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	2	6%	0	0%
12	ハシブトガラス	2	2%	1	3%	2	1%	0	0%	0	0%	2	6%	1	3%	2	4%
13	シジュウカラ	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	1	2%
14	ヒヨドリ	69	54%	29	74%	123	85%	24	42%	3	5%	0	0%	12	35%	2	4%
15	メジロ	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16	ムクドリ	20	16%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
17	キビタキ	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18	スズメ	5	4%	1	3%	0	0%	4	7%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
19	ハクセキレイ	1	1%	1	3%	2	1%	0	0%	4	7%	1	3%	3	9%	0	0%
合計	19 種	127	100%	39	100%	145	100%	57	100%	58	100%	33	100%	34	100%	47	100%
		10 種		8 種		9 種		8 種		7 種		9 種		9 種		8 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ												○
2	オカヨシガモ				○		○		○	○			
3	ヒドリガモ									○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ		○	○	○		○	○	○				
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カッコウ科の一種											○	
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ												
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ			○								○	
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
20	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
21	チュウシャクシギ												
22	キョウジョシギ					○	○						
23	ヤマシギ												●
24	タシギ								○				
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ									○			
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ	○	○			○							
30	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
32	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
33	ウミウ												
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ					○							
36	ササゴイ		○										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	チュウサギ									○			
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
42	ハチクマ	○											
43	ハイタカ		○		○					○			
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ												
47	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
48	オオコノハズク												
49	カワセミ			○			○			○		○	
50	アカゲラ												
51	チョウゲンボウ		○				○	○					
52	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
53	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
54	カケス				○								
55	オナガ			○	○	○	○			○			
56	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	ヤマガラ												○
58	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ヒバリ						○						
60	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
63	オオムシクイ								○				○
64	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
65	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
66	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
67	コムクドリ				○	○							
68	シロハラ	○	○	○	○						●		○
69	アカハラ	○			○			○			○		
70	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
71	キビタキ	○				○							
72	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	インヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
74	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	キセキレイ			○									
76	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	セグロセキレイ				○								○
78	タヒバリ						○				○		
79	シメ							○				○	
80	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
81	ホオジロ	○		○	○			○		○			
82	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
83	オオジュリン			○						○			
84	ドバト	○	○					○			○	○	○
合計	84 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12 (3) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 11 回)

No.	種名	調査時期									
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)		第 11 回 (R7 秋～R8 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ	○	○								
2	オカヨシガモ										
3	ヒドリガモ		○				○				○
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○		○
5	マガモ										
6	オナガガモ	○									
7	コガモ	○				○	○	○	○		
8	ホシハジロ		○	○	○	○		○			
9	キンクロハジロ										
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○		
11	ホオジロガモ	○									
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○	○	○		
13	カッコウ科の一種										
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○		
16	カイツブリ			○		○		○			
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○		
18	ミミカイツブリ										
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○		○			
20	コチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○		
21	チュウシャクシギ		○				○				
22	キョウジョシギ		○				○				
23	ヤマシギ										
24	タシギ										
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ										
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○		○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ										
30	セグロカモメ	○	○	○	○		○	○	○		○
31	オオセグロカモメ	○	○								
32	コアジサシ										
33	ウミウ								○		
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ										
36	ササゴイ										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	チュウサギ										
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○		
41	ミサゴ							○		○	○
42	ハチクマ										
43	ハイタカ					○					
44	オオタカ		●		○	○	○	○		○	○

表 12 (4) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 11 回)

No.	種名	調査時期									
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)		第 11 回 (R7 秋～R8 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ								○		
47	ノスリ	○	○		○	○	○	○			
48	オオコノハズク		●								
49	カワセミ	○							○		
50	アカゲラ										○
51	チョウゲンボウ				○						
52	ハヤブサ		○				○		○		
53	モズ	○								○	
54	カケス					○					
55	オナガ										
56	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	ヤマガラ										
58	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ヒバリ										
60	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○		
62	ウグイス	○	○		○				○		
63	オオムシクイ										
64	オオヨシキリ					○					
65	メジロ	○	○	○	○	○			○		
66	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○		●
67	コムクドリ										
68	シロハラ	○	○		○		●				
69	アカハラ				●		○				
70	ツグミ	○		○	○	○	○	○	○		
71	キビタキ								○		○
72	ジョウビタキ	○	○		○	○	○	○	○		
73	イソヒヨドリ	○	○	○	○		○	○			
74	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	キセキレイ							○			
76	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	セグロセキレイ										
78	タヒバリ							○	○		
79	シメ										
80	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○		○
81	ホオジロ			○							
82	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○		
83	オオジュリン										
84	カワラバト(ドバト)	○	○	○	○	○	○				
合計	84 種	41 種	41 種	33 種	38 種	37 種	38 種	37 種	36 種	15 種	21 種
		48 種		40 種		45 種		44 種		23 種	

注 1. ●: 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



ヒドリガモ



イソシギ(重要種)



ユリカモメ



ウミネコ(重要種)



セグロカモメ



カワウ



アオサギ



ミサゴ(重要種)

写真 2 (1) 確認された主な鳥類



オオタカ(重要種)



トビ(重要種)



アカゲラ



モズ(重要種)



ハシブトガラス



シジュウカラ

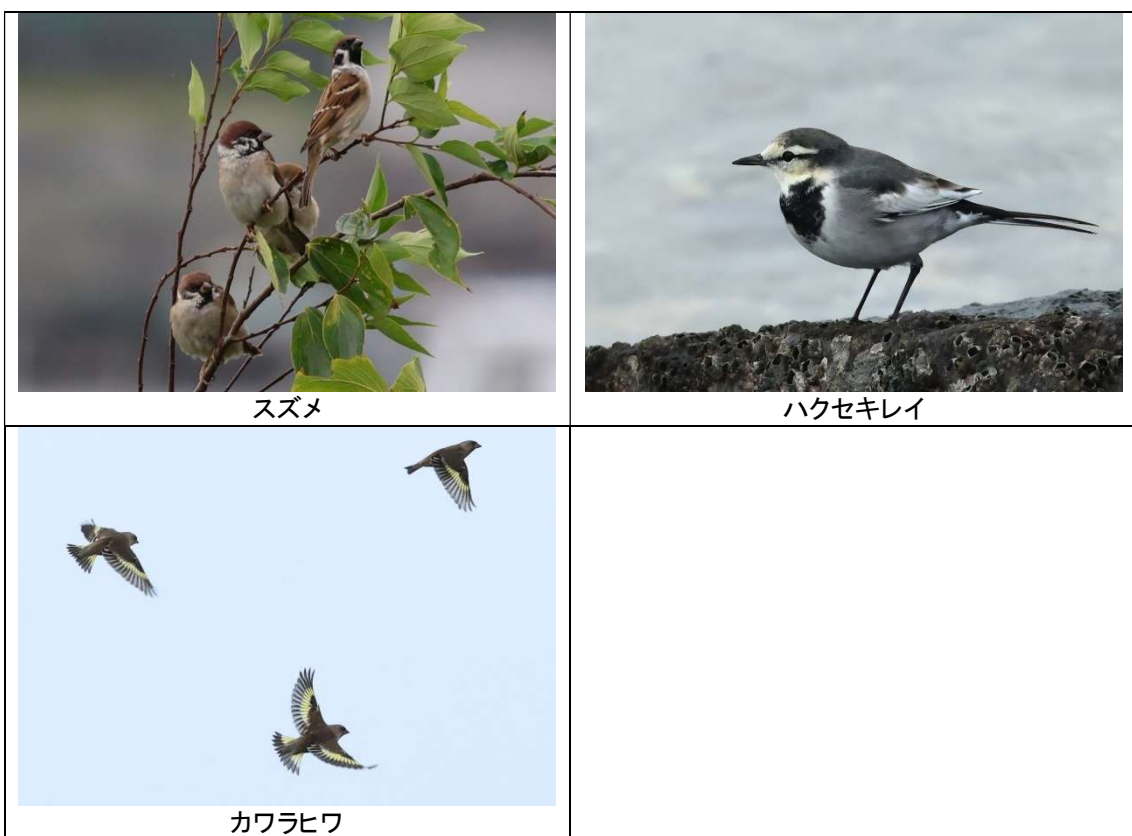


ヒヨドリ



キビタキ

写真 2 (2) 確認された主な鳥類



スズメ

ハクセキレイ

カワラヒワ

写真 2 (3) 確認された主な鳥類



写真 3 自動撮影カメラで確認された生き物



アオダイショウ(東京都 RL:NT)



推定ドブネズミの糞

写真 4 任意踏査で確認された生き物及び痕跡